

科目名（英文表記）	ビジネスプランニングⅡ（Business Planning Ⅱ）														
科目区分	実践科目	単位数	2 単位												
担当教員名	内田純一・齋藤一郎・ 手島直樹・藤原健祐 (非) 井馬智行・(非) 太田 稔・(非) 奥田和重	ナンバリング	MBA_P_BP 6421												
研究室番号	(内田) 5 1 3 (齋藤) 3 4 0 (手島) 3 3 5 (藤原) 4 1 8	研究室電話番号	(内田) 2 7 - 5 3 8 9 (齋藤) 2 7 - 5 3 4 5 (手島) 2 7 - 5 4 5 9 (藤原) 2 7 - 5 4 9 2												
Eメール・アドレス	(内田) uchida@res.otaru-uc.ac.jp (齋藤) ichiro@res.otaru-uc.ac.jp (手島) n-tejima@res.otaru-uc.ac.jp (藤原) k-fujiwara@res.otaru-uc.ac.jp														
授業の内容及び方法： 次頁以降に記載															
<p>授業の目的： 本授業の目的は「ビジネスプランニングⅠ」で習得したビジネスプランニングの知識・スキルをさらに高めて、より高度なビジネスプラン作成能力を身につけることにある。 「ビジネスプランニングⅡ」は、モジュール1～2においてグループ単位（1グループ3名）で立案する第1課題（既存企業における新規事業計画）と、モジュール3～4における各自が個人レベルで実施する第2課題（自由課題）から構成される。本授業では、顧客や市場における要求（ニーズ）把握や競合や業界に関わる認識、提供する価値とそれを具現化した商品・サービスの開発、商品・サービスの特性やチャネル特性などを勘案したターゲティングやセグメンテーション、経営資源における強み等々を活かせるようなビジネスを構築する能力の習得・向上を主たる狙いとしている。</p> <p>なお、本授業で立案した事業内容をそのままビジネスワークショップ（後期）において取り組む課題として流用することは禁止されているので注意すること。</p>															
<p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 在学中もしくは修了後に、新規事業あるいは新起創業を志す者に必要なビジネスプランニングの技法およびビジネスプランの作成能力を身につけていること。 ② 経営者や出資者に対して、ビジネスプランを効果的に提示する際に必要な表現力とプレゼンテーション力を身につけていること。 															
<p>使用教材： 小樽商科大学ビジネススクール編『MBAのためのビジネスプランニング手法』同文館出版, 2010 同上編『MBAのためのビジネスプランニング（改訂版）』同文館出版, 2012</p>															
<p>成績評価の方法： 成績評価の評点配分については、以下の通りである。</p> <table> <tr> <td>出席点</td> <td>: 0%</td> </tr> <tr> <td>授業への貢献度（個人課題、ディスカッサント講評）</td> <td>: 20%</td> </tr> <tr> <td>モジュール1の事後成果物（グループ課題）</td> <td>: 15%</td> </tr> <tr> <td>モジュール2の事後成果物（グループ課題最終成果物）</td> <td>: 20%</td> </tr> <tr> <td>モジュール3・4の事後成果物（個人課題、10%・15%）</td> <td>: 25%</td> </tr> <tr> <td>モジュール4終了後1週間程度後の個人課題最終成果物</td> <td>: 20%</td> </tr> </table>				出席点	: 0%	授業への貢献度（個人課題、ディスカッサント講評）	: 20%	モジュール1の事後成果物（グループ課題）	: 15%	モジュール2の事後成果物（グループ課題最終成果物）	: 20%	モジュール3・4の事後成果物（個人課題、10%・15%）	: 25%	モジュール4終了後1週間程度後の個人課題最終成果物	: 20%
出席点	: 0%														
授業への貢献度（個人課題、ディスカッサント講評）	: 20%														
モジュール1の事後成果物（グループ課題）	: 15%														
モジュール2の事後成果物（グループ課題最終成果物）	: 20%														
モジュール3・4の事後成果物（個人課題、10%・15%）	: 25%														
モジュール4終了後1週間程度後の個人課題最終成果物	: 20%														

評価に不服のある場合には、不服申立書を以て、教務委員長に申し出ること。

履修上の注意事項：

- ①授業は基本的に、本シラバスの記載内容に即して行われるが、変更の必要が生じた場合や別途の指示、事前・事後課題の詳細等については、manabaシステム上に掲載する。
- ②成績評価上、5時限以上欠席すると自動的に不可となるので注意すること。
- ③なお、モジュール4の授業は、試験相当時間（1時限）分を併合し、10：30～17：40の時間帯で行う。
- ④本授業では、履修者相互による啓発を目的として、「ディスカッサント（Discussant:討論者）」制度を導入する。すなわち、各グループに対しては、予め複数のディスカッサント（同一グループ以外の履修生）を、個人に対しては予め2名のディスカッサント指名し、グループあるいは個人のプレゼンテーションおよび作成資料に対するコメントを義務付ける。なお、提出された「建設的な意見」については、“授業への参加度”として個人別に評価対象とする。
- ⑤本授業では、グループワークにおけるフリーライダーを抑止するため、各モジュールの発表者を教員が指名する。
- ⑥本授業のグループワーク活動の一環として、学外の方（例えば、OBSのOBやOG等）にインタビューなどを依頼する場合には、社会人としてのビジネスマナーを守り、決して先方に迷惑をかけたりすることのないように充分配慮すること。